

2015年度

第3四半期決算

投資家様向け説明会

2016年1月28日
オムロン株式会社



EARTH-1STAGE

発表のポイント

■ 3Q累計実績

- ・ 前年同期比で売上高は横ばい、営業利益は減少
- ・ 事業環境が想定よりも悪化し、業績に影響

■ 通期見通し

- ・ 4Qの事業環境も2Q時点での想定より悪化しており、通期見通しを下方修正

■ 株主還元

- ・ 配当性向30%を適用し、年間配当額予想を68円に引き下げ
- ・ 3Qに取得した150億円相当の自己株式344万株は全て消却済み

目次

1. 3Q累計実績	P. 3
------------------	------

2. 通期見通し	P. 10
-----------------	-------

3. 株主還元	P. 20
----------------	-------

参考資料	P. 25
-------------	-------

3Q累計実績

3Q累計実績



3Q累計実績

売上高は横ばい、営業利益は減少

(億円)

	2014年度 3Q累計実績	2015年度 3Q累計実績	前年同期比・差
売上高	6,143	6,140	±0%
売上総利益 (売上総利益率)	2,439 (39.7%)	2,374 (38.7%)	△2.7% (△1.0P)
営業利益 (営業利益率)	630 (10.3%)	442 (7.2%)	△29.9% (△3.1P)
税引前四半期純利益	655	447	△31.8%
当社株主に帰属する 四半期純利益	493	339	△31.3%
USDレート (円)	107.2	121.5	+14.3
EURレート (円)	140.5	133.5	△7.0

3Q累計 事業セグメント別 売上高

制御機器事業、電子部品事業、車載事業、ヘルスケア事業は増収。
 社会システム事業、本社直轄事業は、パソコン・バックライトの落ち込みにより減収。

(億円)

	2014年度 3Q累計実績	2015年度 3Q累計実績	前年同期比
制御機器事業 (IAB)	2,446	2,516	+2.9%
電子部品事業 (EMC)	756	787	+4.1%
車載事業 (AEC)	1,009	1,040	+3.0%
社会システム事業 (SSB)	480	449	△6.5%
ヘルスケア事業 (HCB)	735	810	+10.3%
本社直轄事業 (その他事業)	678	501	△26.1%
本社他 (消去調整含む)	39	37	△4.4%
合計	6,143	6,140	±0%

3Q累計 事業セグメント別 営業利益

ヘルスケア事業は増益。

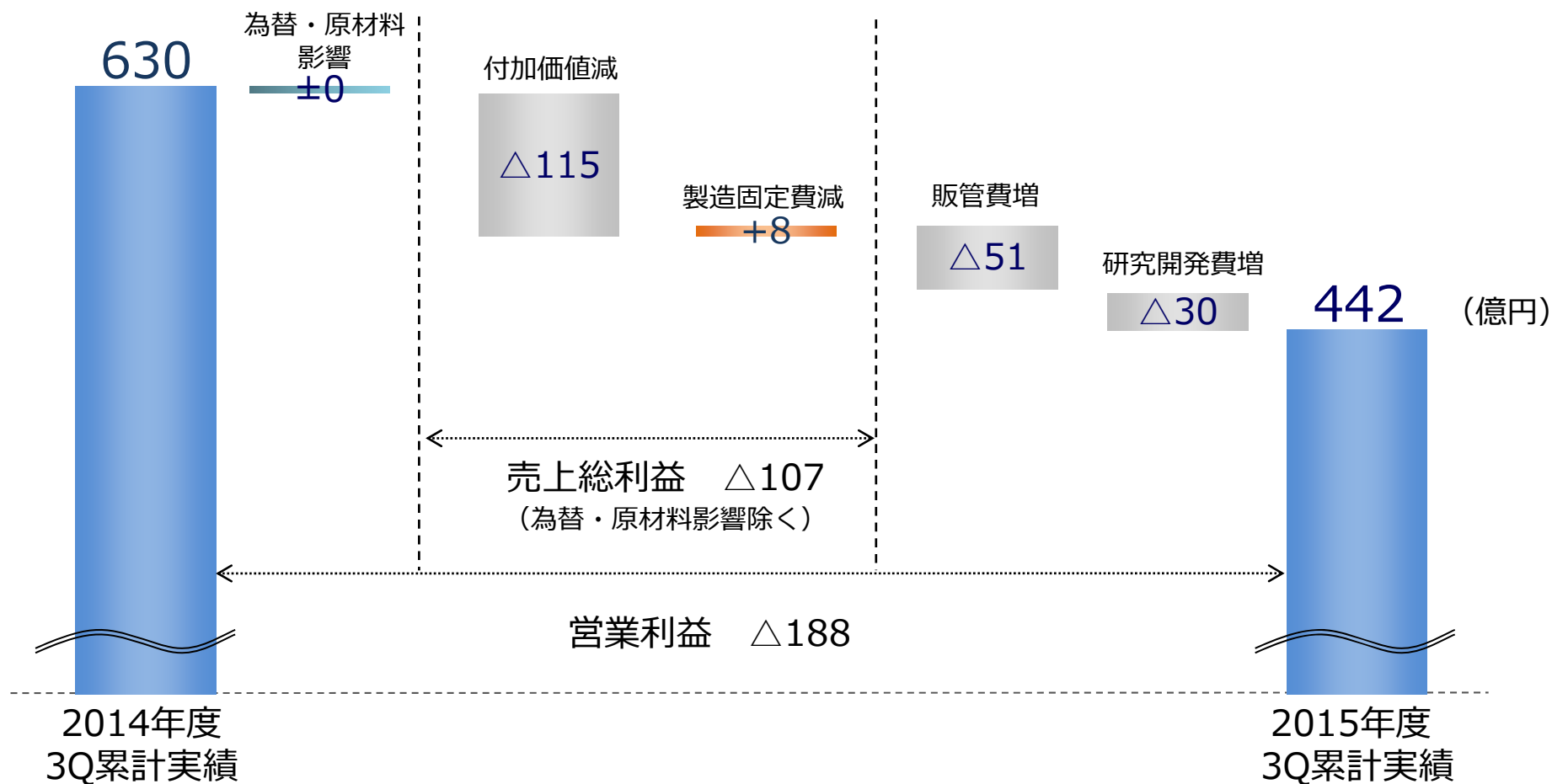
他の事業は成長に向けた投資の増加などにより減益。

(億円、%：営業利益率)

	2014年度 3Q累計実績	2015年度 3Q累計実績	前年同期差	主な減益要因
制御機器事業 (IAB)	403 (16.5%)	368 (14.6%)	△35 (△1.9P)	M&A統合費用 研究開発費増
電子部品事業 (EMC)	70 (9.3%)	66 (8.3%)	△5 (△0.9P)	生産性改善投資
車載事業 (AEC)	71 (7.0%)	52 (5.0%)	△18 (△1.9P)	研究開発費増
社会システム事業 (SSB)	△10 (-)	△27 (-)	△17 (-)	売上減
ヘルスケア事業 (HCB)	58 (8.0%)	63 (7.8%)	+5 (△0.1P)	
本社直轄事業 (その他事業)	84 (12.3%)	△19 (-)	△103 (-)	売上減
本社他 (消去調整含む)	△46	△61	△16	IT投資
合計	630 (10.3%)	442 (7.2%)	△188 (△3.1P)	

営業利益増減 (前年同期比)

パソコン・バックライトの売上減少により付加価値が減少。
成長に向けた販管費、研究開発費が増加。



連結貸借対照表

前年度末から流動資産は減少、投資その他の資産は増加

(億円)

	2015年3月末	2015年12月末	前年度末差
流動資産	4,341	3,784	△557
有形固定資産	1,515	1,510	△5
投資その他の資産	1,255	1,543	+288
資産の部合計	7,110	6,836	△274
流動負債	1,768	1,460	△308
固定負債	422	436	+14
負債の部合計	2,189	1,896	△293
株主資本	4,898	4,916	+18
非支配持分	23	25	+1
純資産の部合計	4,921	4,940	+19
負債及び純資産合計	7,110	6,836	△274
株主資本比率	68.9%	71.9%	+3.0P

連結キャッシュ・フロー計算書

M&Aの実行により投資CFが増加し、FCFはマイナス

(億円)

	2014年度 3Q累計実績	2015年度 3Q累計実績	前年同期差
営業活動によるキャッシュ・フロー (営業CF)	426	476	+50
投資活動によるキャッシュ・フロー (投資CF)	△279	△581	△302
フリー・キャッシュ・フロー (FCF)	148	△104	△252
財務活動によるキャッシュ・フロー (財務CF)	△289	△316	△27
四半期末の現金残高	831	586	△245
設備投資	257	263	+6
減価償却費	205	232	+27

通期見通し

通期見通し



下期事業セグメント別事業環境認識 (2Q時点の見通しからの変化)

2Q時点の見通しと比較し、制御機器事業、電子部品事業の事業環境は悪化

	前回見通し		今回見通し	
	3Q	4Q	3Q	4Q
制御機器事業 (I A B)	→	→	↘	↘
電子部品事業 (E M C)	→	→	↘	↘
車載事業 (A E C)	↘	→	→	↗
社会システム事業 (S S B)	→	↘	→	↘
ヘルスケア事業 (H C B)	↘	↘	↘	↘
本社直轄事業 (その他事業)	↘	→	↘	↘

4Q 事業セグメント別事業環境認識 (2Q時点の見通しからの変化)

制御機器事業 (I A B)	<p>国内：半導体は軟調継続。自動車は遅れていた設備投資の実行により回復。 海外：中国は低調継続。アジアは中国影響と通貨安などにより減速。 米州は自動車が堅調継続も、原油関連投資は減速。欧州は緩やかに回復。</p>
電子部品事業 (E M C)	<p>家電：中国はエアコンを中心に生産調整が続き、減速。 車載：中国は減税により需要が回復。北米は堅調継続。国内は軟調継続。</p>
車載事業 (A E C)	<p>国内：国内需要は軟調継続も、円安・原油安により北米向け輸出は堅調。 海外：中国は減税により、一時的な落ち込みから回復。北米は堅調継続。</p>
社会システム事業 (S S B)	<p>駅務：一部顧客に投資の弱含み傾向があるものの、需要は総じて堅調継続。 環境：小規模事業者向け市場の低調継続。</p>
ヘルスケア事業 (H C B)	<p>国内：家庭向けは暖冬により減速。病院向けは設備投資の抑制により需要が減少。 海外：中国は店頭販売が低調も、ネット販売が好調継続。ブラジルは軟調継続。</p>
本社直轄事業 (その他事業)	<p>環境：住宅向け、小規模事業者向け市場ともに低調継続。 バックライト：中国のスマホ市場の低迷が継続。</p>

通期見通し

事業環境の悪化を織り込み、通期見通しを修正

(億円)

	2015年度 見通し(前回)	2015年度 見通し(今回)	前回見通し比・差	2014年度 実績	前年度比・差
売上高	8,600	8,350	△2.9%	8,473	△1.4%
売上総利益 (売上総利益率)	3,380 (39.3%)	3,235 (38.7%)	△4.3% (△0.6P)	3,326 (39.3%)	△2.7% (△0.5P)
営業利益 (営業利益率)	700 (8.1%)	620 (7.4%)	△11.4% (△0.7P)	866 (10.2%)	△28.4% (△2.8P)
税引前当期純利益	710	655	△7.7%	874	△25.0%
当社株主に帰属する 当期純利益	535	475	△11.2%	622	△23.6%
USDレート (円)	120.8	120.5	△0.3	110.0	+10.5
EURレート (円)	134.6	132.0	△2.6	138.7	△6.7

※ 4Qにおける為替レート的前提は、USD117円、EUR127円

事業セグメント別 売上高通期見通し

制御機器事業、電子部品事業、車載事業、ヘルスケア事業で増収を見込む

(億円)

	2015年度 見通し(前回)	2015年度 見通し(今回)	前回見通し比	2014年度 実績	前年度比
制御機器事業 (IAB)	3,500	3,380	△3.4%	3,318	+1.9%
電子部品事業 (EMC)	1,080	1,040	△3.7%	1,039	+0.1%
車載事業 (AEC)	1,380	1,400	+1.4%	1,379	+1.5%
社会システム事業 (SSB)	800	775	△3.1%	804	△3.6%
ヘルスケア事業 (HCB)	1,110	1,070	△3.6%	1,006	+6.3%
本社直轄事業 (その他事業)	680	640	△5.9%	874	△26.8%
本社他(消去調整含む)	50	45	△10.0%	53	△13.1%
合計	8,600	8,350	△2.9%	8,473	△1.4%

事業セグメント別 営業利益通期見通し

成長に向けた投資を厳選して継続的に実施し減益

(億円、%：営業利益率)

	2015年度 見通し(前回)	2015年度 見通し(今回)	前回見通し差	2014年度 実績	前年度差
制御機器事業 (IAB)	550 (15.7%)	500 (14.8%)	△50 (△0.9P)	546 (16.5%)	△46 (△1.7P)
電子部品事業 (EMC)	105 (9.7%)	80 (7.7%)	△25 (△2.0P)	102 (9.8%)	△22 (△2.1P)
車載事業 (AEC)	75 (5.4%)	75 (5.4%)	±0 (△0.1P)	92 (6.7%)	△17 (△1.3P)
社会システム事業 (SSB)	35 (4.4%)	32 (4.1%)	△3 (△0.2P)	50 (6.2%)	△18 (△2.1P)
ヘルスケア事業 (HCB)	70 (6.3%)	70 (6.5%)	±0 (+0.2P)	65 (6.5%)	+5 (+0.1P)
本社直轄事業 (その他事業)	△35 (-)	△45 (-)	△10 (-)	84 (9.6%)	△129 (-)
本社他(消去調整含む)	△100	△92	+8	△73	△19
合計	700 (8.1%)	620 (7.4%)	△80 (△0.7P)	866 (10.2%)	△246 (△2.8P)

今後の成長に向けた取り組み

事業成長、課題解決の観点で今後の成長に向けた取り組みを実施

■ 事業成長

制御機器事業

デルタ タウ社、アデプト社のM&A

⇒幅広い商品ラインナップでIndustry4.0に貢献

ヘルスケア事業

NS社のM&A、超小型手首式血圧計の開発

⇒地球上の一人ひとりの健康ですこやかな生活への貢献

■ 課題解決

バックライト パワコン

事業構造再構築

⇒収益を生み出し続ける構造への転換

Industry4.0の実現に向けて

M&Aにより商品ラインナップと技術力を強化
これをベースにビッグデータを活用し、Industry4.0の実現に貢献

オムロンの制御技術
(ILO+S)

ロボティクス技術
(+R)



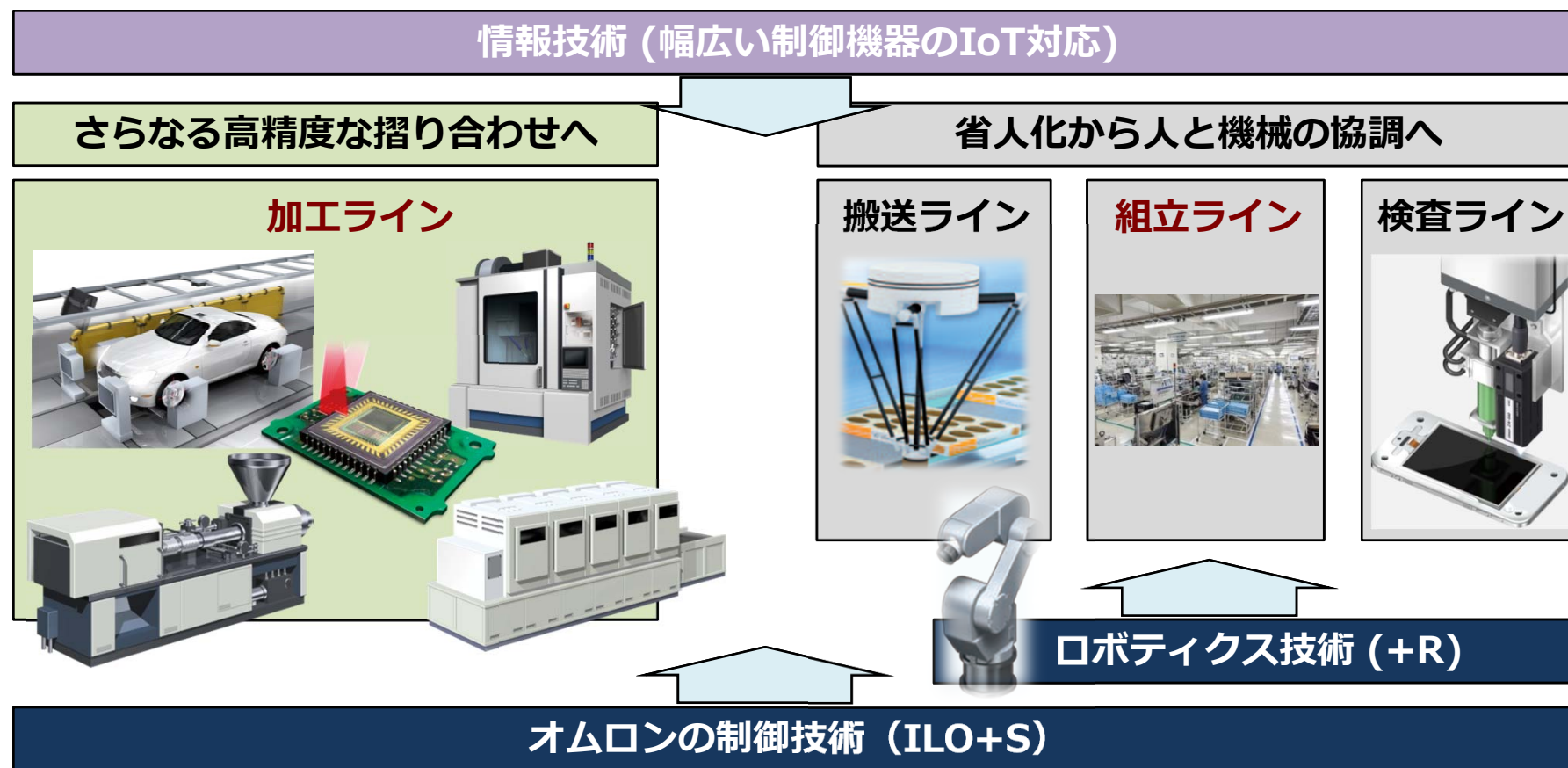
情報技術
(ビッグデータの
活用)

Industry4.0

製造現場の革新

デルタ タウ社 ⇒ 加工ライン：高度化 (高速、高精度、情報化)による機械の進化

アデプト社 ⇒ 組立ライン：「人と機械の協調」による新しいオートメーションの創造



All for Healthcare

地球上の一人ひとりの健康ですこやかな生活への貢献

事業ビジョン

【循環器事業】
脳・心血管イベントゼロ



血圧計

【呼吸器事業】
小児喘息患者 重症化ゼロ



ネブライザ

株主還元

株主還元



1株あたり配当

直近の当期純利益の見通しに配当性向30%を適用し、68円に引き下げ

	2015年度 予想(前回)	2015年度 予想(今回)
配当性向	30.1%	30.9%
年間配当	74円	68円 中間34円 期末34円

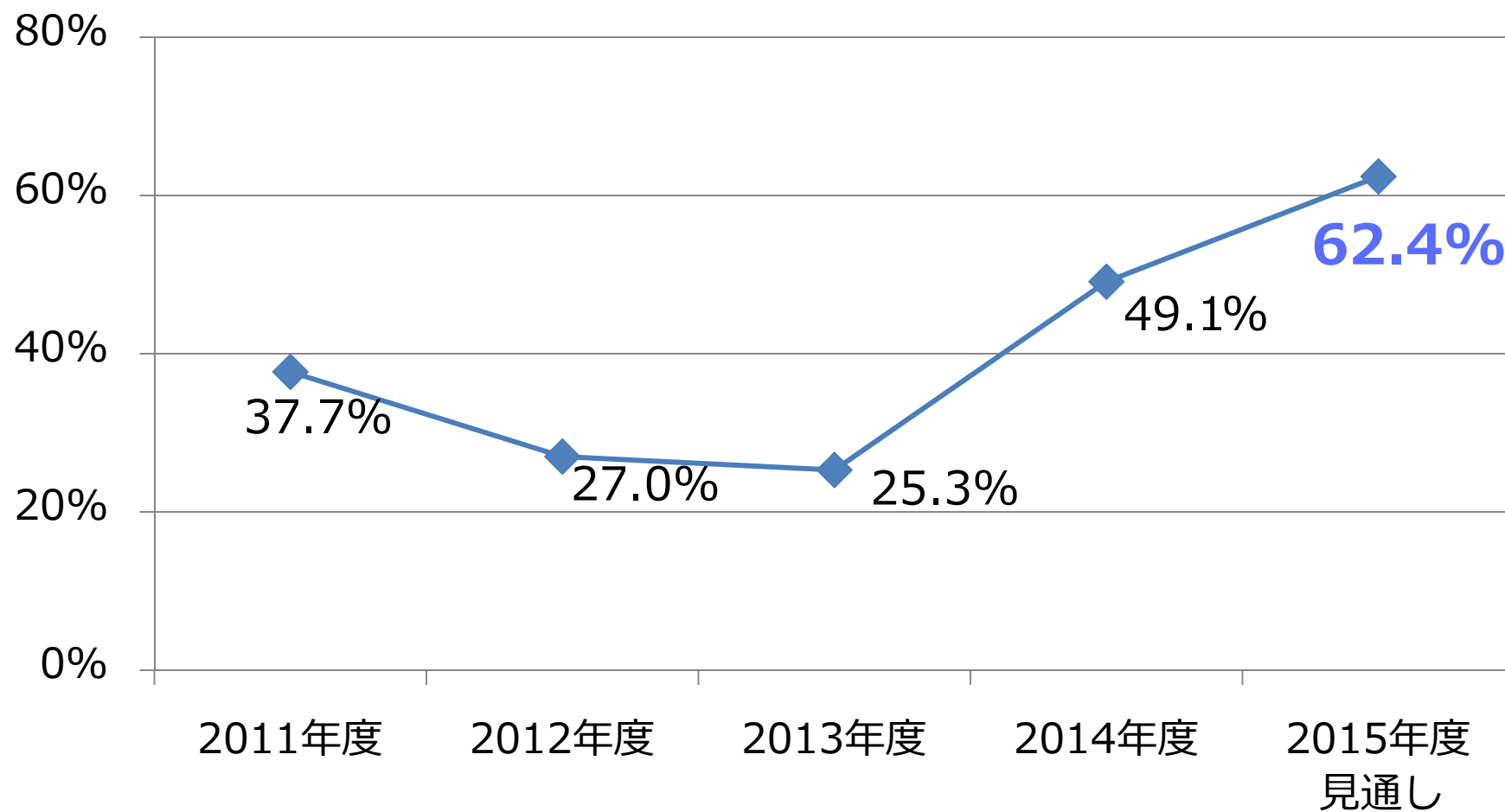
自己株式の消却

3Qに取得した150億円相当の自己株式344万株は全て消却済み

- **取得株式数** **344万株 (150億円相当)**
- **消却株式数** **344万株**
- **消却前発行済株式総数
(自己株式を除く)に対する割合** **1.58%**
- **消却後発行済株式総数** **2億1,396万株**

総還元性向

2015年度の総還元性向は60%超を見込む

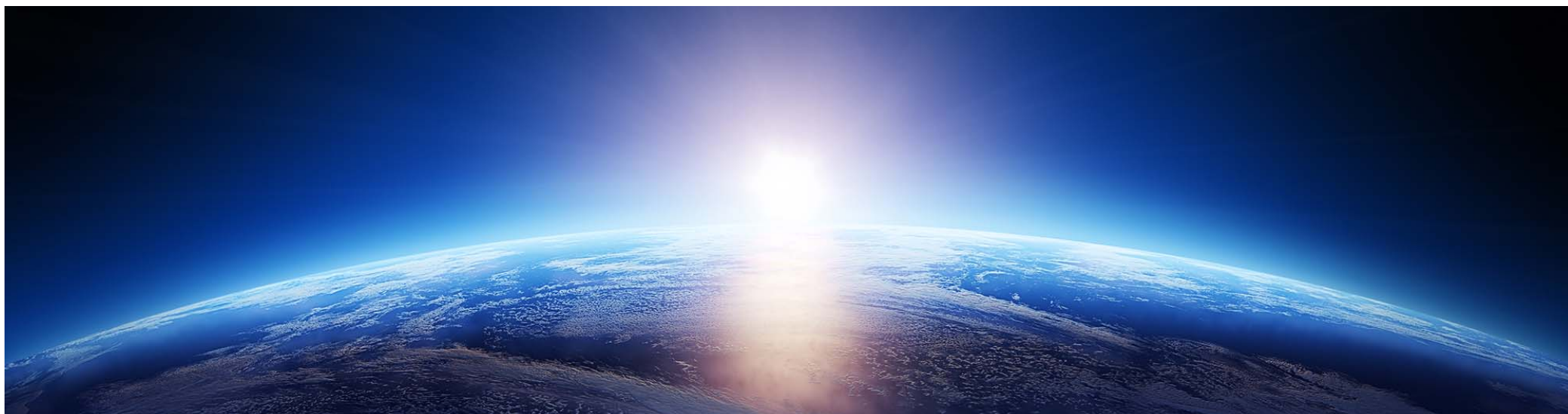


OMRON

Sensing tomorrow™

参考資料

参考資料



為替・原材料前提

為替レート、原材料価格の変動を考慮し、4Qにおける前提を変更

■ 4Q前提 (前回見通し差)

為替

USD・・・117円 (△3円)

EUR・・・127円 (△8円)

1円変動による影響額 (通期)

	売上高 影響額	営業利益 影響額
USD	約34億円	約3億円
EUR	約8億円	約4億円

原材料

銀・・・63,000円/kg (△2,000円)

銅・・・700円/kg (△70円)

価格変動による影響額 (通期)

	変動額	営業利益 影響額
銀	1,000円/kg	約0.8億円
銅	10円/kg	約0.3億円

※ 為替、原材料の変動による影響額は2014年度実績を基に算出

ROIC逆ツリー展開

現場



KPI

注力業界/エリア 売上
 新商品/注力商品 売上
 売価コントロール
 変動費CD額・率
 失敗コスト率

一人当り生産台数
 自動化率（省人数）

売上高人件費率

在庫月数
 不動産在庫月数
 債権/債務月数

設備回転率
 (1/N自動化率)

改善ドライバー

売上総利益率

付加価値率

製造固定費率

販管費率
 R&D率

運転資金回転率

固定資産回転率

ROS

投下
 資本
 回転率

ROIC

ROICの計算式

＜連結貸借対照表＞

科目	年 月末
資産の部	
流動資産	
...	
有形固定資産	
...	
投資その他の資産	
...	
負債の部	
流動負債	
短期債務	
...	
...	
純資産の部	
株主資本	
...	
...	
純資産の部合計	
負債及び純資産合計	

$$ROIC = \frac{\text{当期純利益}}{\text{投下資本}}$$

$$\text{投下資本} = \text{純資産} + \text{有利子負債}$$

※投下資本は、前期末実績および当期の各四半期毎の実績または見通しを平均し算出

EARTH-1 STAGE (2014～2016年度)における想定資本コスト：6%

<注意事項>

1. 当社の連結決算は米国会計基準を採用しています。
2. 業績予想などは、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまなリスクや不確定な要素などの要因により、異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、平成28年3月期 第3四半期決算短信のP. 6「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

3. 当資料は「平成28年3月期 第3四半期決算短信」に準拠し作成しています。
差額、比率については百万円単位で計算し、四捨五入しています。

<IRに関するお問い合わせ>

オムロン株式会社

グローバルIR・コーポレートコミュニケーション本部
経営IR部

電話 : 03-6718-3421

E-mail : omron_ir@omron.co.jp

HPアドレス : www.omron.co.jp